

令和5年度 企業等と連携したICT人材育成のための指導の在り方に関する調査研究

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

【目的】企業と連携し、ICT活用によるさまざまな実習を通して、在宅ワークなどの新しい働き方を踏まえた進路選択や指導や支援の在り方を検討することで、教員の障害のある子どもへのキャリア教育に関する指導力の向上を図る。また障害のある子どもたちの活躍の場を企業と共同研究し広報することで、障害者理解の促進を図る。

取組内容

(1) 企業等と連携したICT人材育成のための指導の在り方に関する検討会議（年3回）

・学識経験者、学校関係者、企業関係者、保護者代表等の様々な立場の方を構成員とし、遠隔システムを活用した就労支援や、効果的な企業連携、障害者理解につながる取組等の方策について検討

(2) 企業と連携し、ICTを活用した実習や体験活動の実施

・企業と連携したICTを活用した在宅ワーク体験（しごと体験）を実施し、オンラインでのコミュニケーション交流の体験を通して、将来の働く姿をイメージしたり、多様な進路選択の可能性を広げた。
・地元中小企業と連携し、学校を会場とした「おしごと体験会」のワークショップを開催し、生徒達が実際の仕事内容を体験することで、「働くこと」に対するイメージを抱くことができるようにする。企業にとっては、障害者雇用に向けた業務の切り出しについて、特別支援学校が持つノウハウを学ぶことにつながった。

(3) 「キャリア教育甲子園」のプレ開催

・障害のある生徒が、PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを活用し、各校でのキャリア教育に関する学習活動を経験して成長したことや、自分自身の将来の夢や目標を「キャリア教育甲子園（プレ開催）」の中で発表。

(4) 特別支援教育の理解啓発及び県や学校の取組の周知を目的としたポスターの作成

・特別支援教育や、特別支援学校の取組をより多くの人に周知するためのポスターを作成。

成果

- ・「在宅ワーク」「遠隔による就労」等、通勤を前提としない新しい働き方を新たに知り、進路選択の幅に広がりが見られた。
- ・「キャリア教育甲子園」のプレ開催により、生徒自身が学校で学んだことや、将来の夢を学校以外の関係者も含む多くの人達に発表する場を設けることができた。
- ・検討会議を通して、様々な立場の方からの意見を参考に特別支援に関する取組や更なる理解啓発を進めるためのポスターを作成した。

課題と方策

（課題）

・「在宅ワーク」「遠隔による就労」は、現在肢体不自由の生徒に限られており、進路選択の広がり一部生徒に限られてしまう傾向があるため、今後も様々な発達段階や障害特性に応じ、スキルの向上だけでなく、SNSを介したコミュニケーション方法や情報モラルに関する教育も含め、「ICTと上手につき合い、自己発信できる」児童生徒を育成できるよう、企業と連携した取組が必要である。

（方策）

- ・生徒の自己発信のための取組の更なる工夫、障害種別に応じたより多様な手段によるICT活用の研究が求められる。
- ・特別支援教育に関する理解啓発ポスターについて、ポスターに貼付したQRの先のコンテンツを更新していくことと、各校でのICTを活用した好事例を集約し、デジタルリーフレット等を作成し、広く取組を周知していく。